

3. 実践

人と人との関わりを大切にした「人間」の学習

—第2学年「みんなであそぼう（親子編）」の実践を通して—

福田 秀 範

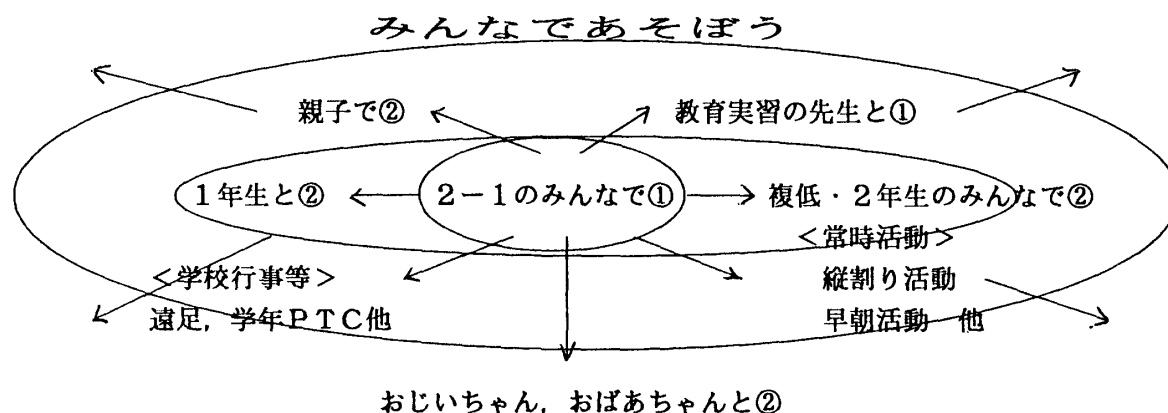
(1) 主題について

人は人との関わりの中で生きている。自分にはない人のよさを発見したり、自分のよさに気づいたりといった、自分がより豊かに成長していくために必要なことは、人とのふれあいの中で知らず知らずのうちに体験している。この活動では、世代を越えた様々な人々と遊びを通して関わる中で、一人ひとりの子どもが、自分の思いや考えを表現しようとするのをねらいとしている。遊びには世代を越えて楽しめる利点がある。また、自分たちでルールをつくって新しい遊びを創造することもできる。ルールを伝えたり、話し合う中で、初めての人とでも気楽に交流を図ることも可能である。これらのよさを生かしながら、人との関わりを深めていき、人間関係をより豊かなものにすることを期待している。

(2) 活動のねらい

- 1 身近な人と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができるようにする。
- 2 様々な人との関わりの中で、自分の思いや考えを表現することができるようにする。

(3) 活動内容と計画（全10時間）



(4) 活動の概要

ここでは、親子の関わりに焦点を置いた「みんなであそぼう（親子編）」（8/10時間）の概要について紹介する。

① 第1時「みんなであそぼう（親子編）」

創立記念日にあたる10月18日（日）に参観授業として実施した。この日までに、1年生と一っしょに遊ぶ計画を自分たちで立てたり、教育実習の先生に昔の遊びを教してもらったりする経験をしてきている。今回は自分の身近な存在である親と一っしょに遊ぶということで、学級通信を通してどのような内容なのかを適宜連絡していき、保護者と連携を取りながら計画を立てていった。

初めての試みであったので、まず親には、「親として子どもに伝えたい遊び」を子どもたちに紹介していただきたいということを投げかけた。子どもたちは「自分たちの知っている遊びでおうちの人とでも楽しく遊べるもの」という投げかけのもと、各生活班（全8班）ごとに計画を立てた。そして幸運なことに、一人の保護者が「外国のゴム跳び」をぜひ教えてみたいと希望された。

こうして、本時は前半「親から子へ」後半「子から親へ」遊びを紹介するという2部構成で行われることとなった。（保護者案内①参照）

